

富岡美子作 「やっぱり友達」

ナレーション　　ここは青春中学 2 年 A 組。新しいクラスにも慣れてきたころ——。
(効果音)　　(クラスのガヤ)
生徒　　起立。礼。着席。
先生　　今日のホームルームは、まず、このテープを聴いてもらおう。
(効果音)　　(以下、カセットテープのフィルター音)
相談員　　はい、こちら「子供 110 番」です。
A 子　　あのオ、4 月からの新学期でエ、新しいクラスになったんだけどオ、そしたらア、
友達がア、できなくてエ、落ち込んじゃってる。
相談員　　だって、新学期は始まったばかりでしょう？
A 子　　もうみんなグループつくっちゃったからア、わたし、独りぼっちになっちゃったん
だア。だから、わたし、メチャ困ってんのにィ、...分かる？
相談員　　...
A 子　　あのねエ、マジな話しなんだけどオ、イス取りゲームってあるじゃん。「ピッ」て
笛がなったらア、みんなで一斉にイス取るゲームね。わたしたち、あれみたい
に、新学期はスッごい勢いでグループつくっちゃうのよ。
相談員　　なるほど、厳しいのね。
A 子　　わたしねエ、マズかったんだ。仕方ないんだけど、新学期の初日から熱出しち
ゃって学校休んだから、グループから外されても文句言えないんだけど、わた
し、AB 型でミズガメ座だからかなア、落ち込むんだア。もうどうしようもない。
相談員　　発熱で 1 日休んでどうしようもないのなら、もし新学期に盲腸の手術かなんか
で、学校に行けなかったらどうするの？
A 子　　そんなの最低最悪、下の下の下エ。ドジなのよオ。トロいんだ。そんなやつ、ミ
ジメの見本市。もしそれがわたしなら、学校やめる！
相談員　　まさか！　だって、何か事情があって、出遅れてしまうことはよくあることよ。1
日目がダメなら、2 日目から努力すれば、解決すると思わない？
A 子　　え？ “ドリョク”って何？
相談員　　“努力”よ。例えば、場合によっては、「友達になってください」とか、「グループ
に入れてよ」とか意思表示することだって、必要かもしれないわね。
A 子　　“冗談コケコケ”だよ。そんなみっともないことするほど、わたしは落ち目じゃな
い。
相談員　　それじゃ、友達はどうしてできるの？
A 子　　あるじゃん。漫画で、目と目が点線で“ピッ ピッ”って火花が散って、あとは理
屈じゃないわよ。自然に生えてくるんだア。

(効果音) (カセットを止める音)

先生 これは、みんなと同じ中学 2 年生の女の子の悩みだ。みんなが、もしこの女の子の立場になったら、どうする？ ま、感じたことや考えたことを自由に話し合ってくれ。

男子 やっぱ女子は冷たいと思います。すぐ気の合う同士グループをつくって、気が合わない子は仲間外れにする。かわいそうだと思います。

女子 A そんなの女子だけじゃないと思うわ。男子だって、冷たい人たくさんいるじゃない。

中野圭子 わたしは、仲間外れにする周りの人たちも悪いように思いますが、この女の子、少し甘えていていると思います。友達が自分のほうへ来るのを待っているなんて、そんな受け身の姿勢ばかりでいいのかな、って思うんですけど。

男子 おっ、厳しいこと言うじゃん。

圭子 友達になれるように努力することが大切だと思います。

男子 努力？ 友達つくるのに努力するのかよ。めんどくさい。

女子 A いつも独りでいる渡辺さんはどう思う？

渡辺牧子 あのお、わたし、独りでいるのが好きですから、別にお友達がいなくても…。

男子 渡辺は、“勉強がお友達”なんだよな？

女子 A そうそう。渡辺さんは、わたしたちみたいなバカとは付き合えないって。お勉強がお忙しくて、わたしたちと遊んでられないんだってさ。

牧子 別に、そんなんじゃない…。

圭子 そんなに渡辺さんばかりを責めないでください。わたしたち、みんながみんな、よい友達になれるように、努力していく必要があると思います。

先生 わたしは、みんなが「このクラスでよかった」と言えるように、努力していったほうがいいと思う。それじゃ、今日のホームルームはこれで終わりにする。

(効果音) (先生が出て行くドアの音。生徒のガヤ)

女子 B ねえ ねえ中野さん。今度の日曜日、わたしたちと一緒に映画見に行かない？

圭子 日曜日？ ダメよ。日曜日は教会行かなきゃ。

女子 C そうか、中野さん、クリスチャンだったんだ。でも中野さん行かないとつまんないから、午後にする。

圭子 午後なら大丈夫！ ねえ、渡辺さん。渡辺さんも一緒に行かない？

牧子 え？ わたしは、あのお、午後からはピアノが…。

女子 B 渡辺さんは、わたしたちと育ちが違うからねー。わたしたち、中野さんが行ければそれでいいの。

圭子 渡辺さん、残念ね。今度、一緒に行こうね。

ナレーション 中野圭子は、2 年 A 組のクラス委員。日曜日は毎週教会へ通う熱心なクリスチャンで、クラスの人気者でした。渡辺牧子とは、1 年の時から同じクラスで、内

向的な彼女をいつも心にかけていました。

牧子(モノログ) いいなぁ、中野さんは。いつも明るくて、友達もたくさんいる。わたしも一緒に行きたいなぁ。でもいいんだ、わたしには遊んでいる暇はないんだわ。いい高校に入るためには、今から一生懸命勉強しなきゃ。皆が遊んでいる間に、勉強しなくちゃ。わたしは友達なんか要らない。友達なんていなくても、寂しくなんかない。友達なんて…。

(効果音) (玄関の開く音)

牧子の母 牧子さん、遅かったじゃないの。今まで何をしていたの？ 英語の鈴木先生が先ほどからお待ちかねよ。今日は先生がお見えになるの、分かっていたでしょ？

牧子 …

母 学校が終わったら、まっすぐ家に帰ってくるように、いつも言っているでしょう。

牧子 分かってる。お友達と、ちょっと…。

母 え、お友達？ 牧子さん、あんなお勉強もしない人たちとお付き合いしているの？ 牧子さん、聞いているの？

ナレーション 母親の言葉を上の空に、牧子は自分の部屋に閉じこもりました。

牧子(モノログ) “友達”かぁ。そう、わたしには、友達なんて必要ないんだ。友達と遊んでいたら…。

(音楽) (回想のブリッジ)

男子 渡辺は、“勉強がお友達”なんだよな？

女子A 渡辺さんは、わたしたちと育ちが違うから付き合えないのよねー。

牧子(モノログ) やめて。どうしてみんな、わたしのことそんなふうに言うの？ どうしてわたしを仲間外れにするの？ だれもわたしの気持ちなんて分かってくれないんだ。わたしのことなんてだれも考えてくれない！ わたしなんて、いてもいなくても同じなんだ。わたしなんて、わたしなんて、いないほうがいいんだ。

ナレーション 「どうしてわたしだけが？」独りぼっちの寂しさに耐えかねた牧子は、いつしかカミソリの刃を左手首に当てました。

(効果音) (救急車のサイレン)

圭子 渡辺さん、渡辺さん、しっかりして！

牧子 ここはどこ？

圭子 病院よ。ちょっと用事があって、渡辺さんちに通りかかったら、救急車が出てくるじゃない。もうビックリして。

牧子の母 牧子、中野さんはね、一緒に病院まで来て、輸血までしてくれたのよ。お医者が、それでなきゃ少し危なかったって。

牧子 どうして？ どうしてわたしなんか助けたの？ どうして?!

圭子 だって、わたしたち友達じゃない。

牧子 友達？ ウソよ。あんたの周りにはいつも友達がたくさんいる。そんなあんたに、わたしの気持ちなんか分かるわけないでしょ！ 早く帰って。独りにして！

圭子 ううん、帰んないわよ、絶対に。さもなきや渡辺さん、本当に死んじゃうもん。その“わたし病”から今抜け出さなかったら、もう立ち上がれないわよ。

牧子 “わたし病”？

圭子 わたし、わたし、わたし。あなたはいつも“わたし”って殻の中に閉じこもっててもがいてる。だれもわたしのこと分かってくれない。話しかけてくれない。いつもわたしは独りぼっち。——そうやって自分を自分の殻の中に無理やり追い込んで、そんな自分をかわいそうがってる。渡辺さん、あなた、かなり重症の“わたし病”だわ。

牧子 ...中野さん。驚いたア。あんたがそんなふうにするなんて。でも、アタリね。悔しいけど。だけど、だけど、どうして？

圭子 「わたしの気持ち分かるの？」でしょ？ わたしも実はそうだったの。あなた以上の重症患者だった。

牧子 ええ、あんたが?!

圭子 わたしの場合は、小学校の時からどうしたわけか成績がよくって、だんだん自分はほかの人とは違うんだって思い込んでったのね。いつもほかの人より先に行かなきゃ、一緒に遊んでなんかいられないって思いで。心の中は、いつも不安で、絶えず何かに追っかけられてて、そして...ものすごく寂しかった。

ナレーション 牧子は、いつしか食い入るように圭子の話に聞き入っていました。

圭子 もしあの時、イエス様に会わなかったら、こんな醜い心のまんまで、受け入れてくださるイエス様の愛を知らなかったら、わたし、生きてなかったと思う。

牧子 そうなの？ あなたがそうだったなんて、とても信じられないけど、でも、もしそうだとしたら、わたしでもできるかなあ。

圭子 もちろんよ。渡辺さん、わたしたちはおんなじ者同士。ほんとに、やっぱり友達なのよ。

牧子 やっぱ、友達かあ。

ナレーション そう言いながら、牧子は、改めて圭子の顔を見直したのです。心の中に、なんとも言えないあったかいものがこみ上げてくるのを感じながら——。

< 完 >